ポスター11　　**ポスター発表（実践）**

国際生と一般生の協働を生み出すリーダーシップ教育の試み

川上さくら・関根真理・森かほる（啓明学園中学校高等学校）

本校は 3 割が国際生（帰国子女を含む海外につながる生徒）、7 割が一般生である。JSL 日本語指導を行う中で、国際生と一般生がなかなか協働的に学校生活を送れないこと、また、日本語が弱いことに起因した国際生の自己肯定感の低さに課題を感じた。そこで、以下の実践を計画・実施した。

本実践「Baraza[1] in Summer」は中学 1 年〜高校 3 年生までを対象とした夏休み中の課外活動で、小学生を学園に招き、中高生（国際生と一般生）がリーダーとなって一緒に英語でアクティビティを行うボランティア活動である。本実践の目標は以下の通りである。

1. 国際生と一般生の協働を生み出すこと
2. 異学年の参加者と関わることでロールモデルとの出会いの場を作ること
3. 国際生・一般生の両方を巻き込んだリーダーシップ教育を実施すること

本実践は A「イベントの準備」と B「イベント当日の運営」により構成される。

A では、「リーダー」15 名程度が 4 つの Activity Group に分かれ、アクティビティの準備を行った。B では、アクティビティを運営する「Activity Leader(AL)」と、小学生と一緒に各アクティビティを回る「Group Leader(GL)」に分かれた。4 つの小学生グループが順に 4 つのアクティビティを回るので、AL は 15 分のアクティビティを 4 回繰り返すことになる。また、GL は同じ小学生たちと 4 つのアクティビティを回り、子どもたちをサポートする。繰り返しの中で、リーダーたちが徐々に自信を深めていく様子が見られた。

日本語が弱く自信が持てない JSL 生徒が、この「権限のないリーダーシップ教育」（日向野 2018）に参加することで自分の殻を破り、後に日本語での活動にもチャレンジし始める姿を見ることができた。また、国際生・一般生の協働それ自体が、リーダーシップ教育であるという実感が得られた。

・・

【引用文献】

日向野幹也、『高校生からのリーダーシップ入門』、2018、筑摩書房

[1] 「Baraza」とは「異なる背景を持つものが交流する場」という Round Square（国際的な私立学校同盟）の活動形態の一つである。本校は 2018 年より Round Square に加盟している。